

ASC 文法カフェ

長谷川 信子 (ASC・顧問)

第5回(7月18日)では、「準動詞」を扱います。

では、準動詞とは何でしょう? 以下のような特徴を持ちます。

- 動詞の形: 不定詞(原形)か分詞(現在分詞の-ing形、過去分詞の形(規則動詞なら-ed形、不規則動詞なら-en形など)です。例えば、以下の「青字の部分」です。
 - a. Mother told me [to take care of my sister].
 - b. [To become a professional soccer player] is a dream of young boys.
 - c. [To solve this problem], we need someone [to talk to].
 - d. I got acquainted with the man [teaching English to young children].
 - e. The children [taught English by my friend] have improved their pronunciation.
 - f. We finally solved the problem [cooperating with each other].
 - g. I managed to solve the problem [helped by my friend].
 - h. Many people were not sure of [Japan clearing the preliminary round].
- 動詞には「文の核となる」という機能を持っていますが、その機能は「温存」されますから、準動詞との関わりで出てくる要素(準動詞の目的語など)は準動詞と一緒に考えなくてはなりません。ですから、上記では、準動詞と一緒に赤字にしてあります。
- ただ、動詞の通常の使い方と異なり、時制的要素(過去形、三単現の-s)は付随しませんし、willやcanなどの助動詞に直接つながることもありません。)そういう要素をもった他の動詞(つまり、主文)と一緒に使われます。
- 主文と共起するわけですから、従属節と似た性質・機能を持ち、「従属節の代わり、従属節より短く、簡潔に>使われる(逆に言えば、準動詞は従属節に言い換えができる)ことが可能なものが多いです。(上記の青字の部分、「節(時制を持つ従属節)」で言い換えられるもの、ありますか? どれですか? どのように言い換えますか? どうして? 可能性が複数あるものもある?)
- 従属節と似ている、ということは、従属節の基本的機能(使われ方)を持っている、ということです。つまり、名詞的(主語や目的語として)、形容詞的(名詞を修飾する)、副詞的(主文の出来事を修飾して、追加の情報を示す)な機能を持つということです。上記の文、どれが、どの用法と判定できますか? どうしてそう判断しましたか?
- 準動詞は、英語の学習の過程では、学習項目との関係で「小出し」に「部分的」に導入されてきています。動名詞などは、I like skiing.などで、「動名詞」との説明なしに導入されているかもしれませんが、不定詞は中学2年生での重要項目ですが、「名詞的、副詞的、形容詞的」用法を一度にやるので、十分な把握ができていないかもしれません。また、分詞のうち、過去分詞は、基本は「受動文の過去分詞」ですから、受動文の把握が不十分だと、当然、分詞全体の定着が不安定となります。副詞的用法としての「分詞構文」は、高校での学習項目ですが、副詞節の理解は背景になくはありませんし、「形容詞的」用法は、関係節からの短縮がその背景にありますから、関係節の理解が欠かせません。それら全てを、1回で扱うことは厳しいですが、英語の文の「発展・高度化」には欠かせない「準動詞」の基本を、英語全体を俯瞰しながら復習します。